南阿蘇

吉田 愛梨

里の風

「よかオナゴ」への道

私は大のキモノ好き。冬は普段からよく着物を着ている。すべて祖母や曾祖母にもらったものだ。箪笥（たんす）の肥やしにするのはもったいないと思って着始めたところ、暖かいし、気分が引き締まってとても良い。初めは珍しそうに見ていた周囲の人も、最近では洋服を着ていると「今日はなんごつね？」と聞いてくる。我流で着ていたので、近所に住む親せきのおばさんに頼んで着付けを教えてもらう約束をした。ところが…。

農作業が始まると、優雅に着物を着ているわけにはいかなくなってきた。作業がしやすく、汚れても構わない作業服は「おしゃれ」とはほど遠い。春になって雑誌やテレビでは華やかな春ファッションが紹介されているのに、私は作業服ばかりで面白くないなぁ。

そんなことを考え始めたころ、女性ばかりの集まりがあった。女性農業者が主体となってパソコンや漬物作りなどの勉強会を精力的に開催している「白水村女性農業者の会」だ。合併して村名が変わったため、今後の名称や活動を考えようと総会が開かれた。

旧白水村の女性農業者は本当に元気がいい。やたらと元気なヨメを持つ自称「内気」な男性たちが「強妻組合」という防衛組織をつくったほどだが、私にとってはすてきな先輩たちばかりで心強い。いつもよりちょっとおしゃれをして総会にやってきた彼女たちは、作業中に会う時よりもずっときれいでびっくりする。これはやはり作業服のせいに違いない。作業服といえども素敵（すてき）なものが欲しい、と思う気持ちが強くなった。

作業服は人に見せるためのおしゃれではない。しかし自分が楽しく作業に臨むためにも、かっこいい作業服があってもいいのではないかと思う。それにしても、素敵な作業服ってどんなのだろう？最近の大きな関心事である。むろん、ファッションだけのせいにするつもりはない。どんな服を着ていても、「素敵だなぁ」と思える人はいるのだから。

いつもとびきりの笑顔でトラクターに乗っているおばあさんが近所にいる。そんな素敵な彼女に憧れてトラクターの練習を始めたはいいが、操作に夢中でなかなか笑顔になれない。ファッションといい、笑顔といい、「よかオナゴ」への道のりは遠いなぁ…。

（おあしす米生産者、NPO九州バイオマスフォーラム理事長）

絵・有働　孝昭